

生産者意識を主とした黒毛和種親子放牧の評価

加藤満康・中森忠義

(岩手県農業研究センター)

Estimation by Consciousness of Beef Cattle Production

Farmers to Japanese Black Calves Grazing with Their Dams

Michiyasu KATO and Tadayoshi NAKAMORI

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

岩手県は、158ヶ所、36,000haの公共牧場を有するが、日本短角種の放牧頭数の減少などにより、荒廃が進む牧場も多い。

黒毛和種の繁殖牛は、4,600頭放牧されており、親子放牧は、このうち概ね1割を占める。

公共牧場の活用を図るうえで、親子放牧の推進も有効であるが、一般に放牧子牛は市場評価が低いと言われており、繁殖農家も子牛を放牧しない理由の一つにこのことをあげている。

そこで、繁殖農家の意識調査を踏まえ、放牧そのものの評価が低いのかどうかを、実際の子牛購買者である肥育農家の意識調査と枝肉データ分析により検討したので報告する。

2 試験方法

(1) 繁殖農家意識調査

調査時期:平成12年12月

調査対象:親子放牧実施地域の黒毛和種繁殖農家

調査方法:郵送法によるアンケート調査(358戸に送付, 201戸(56%)の回答)

(2) 肥育農家意識調査

調査時期:平成14年9月

調査対象:県内黒毛和種肥育農家

調査方法:郵送法によるアンケート調査(72戸に送付, 41戸(57%)の回答)

(3) 放牧子牛肉質調査

枝肉データと放牧台帳を照合し、放牧経験牛の枝肉データを抽出し分析

3 調査結果及び考察

(1) 親子放牧に対する繁殖農家の意識(表1, 2)

1) 親子放牧する理由として、半数以上の農家が、「牛が健康になる」、「労働の省力化になる」をあげている。

2) 放牧しない理由として、半数近くの農家が、「市場での評価が低い」、「発育が悪い」、「下牧後の飼い直しがたいへん」をあげており、市場評価や発育向上対策が課題であると認識できる。

(2) 放牧子牛の購入に対する肥育農家意識(表3, 4, 5)

1) 「放牧を長所と考え進んで買う」、「今後も導入したい」とする農家が過半数を占めた。逆に「放牧を短所と考え敬遠する」、「今後導入したくない」とする農家は少なく、肥育農家の放牧子牛に対する評価は高い。

2) 農家の88%が「放牧子牛の明示を希望する」としており、子牛市場において、肥育農家は放牧経験の情報を求めている。

(3) 放牧子牛の飼養管理及び肉質に対する肥育農家の意識(表6)

1) 飼養管理については、農家の過半数が「管理のしやすさ」で、放牧子牛は舎飼いより劣ると考えている。一方「事故や病気」、「内臓」、「餌の食い込み」は、過半数の農家で、放牧子牛が優れていると評価している。

2) 枝肉成績については、農家の過半数が、全項目において優劣つかないと考えている。

(4) 放牧子牛の枝肉成績(表7)

県内4ヶ所の公共牧場に放牧され、その後の肥育成績を把握できた牛から、父及び母の父が同じ牛を抽出した。放牧子牛と舎飼い子牛別に分析したが、雌と去勢の両方ともに有意差があった項目は無く、肥育農家の肉質に関する意識と整合する。

(5) 子牛放牧の推進に関する意向(表8, 9)

1) 子牛放牧を推進しないで欲しいとする肥育農家は3%で、過半数は放牧を推進して欲しいと希望している。

2) 放牧期間は「5~6ヶ月」を望む農家が46%と多く、次に現状水準の「3~4ヶ月」とする農家が38%と多い。

3 まとめ

放牧を考慮しない肥育農家も多いものの、半数以上の肥育農家は放牧を長所と捉え、今後放牧子牛を導入したい意向を持っている。また、肉質は舎飼いのみの子牛と同等と評価しているが、この評価を枝肉データにより裏付けた。

このことから、放牧子牛の評価が低いと言われてきたが、放牧すること自体は、子牛の評価を低くするものではないと考える。

表1 子牛を放牧する理由(繁殖農家:複数回答)

理由	回答者数(%)
牛が健康になる	67(69)
手間がかからないから	64(66)
牧野の管理がよいから	22(23)
牛舎が狭いので	13(13)
飼養頭数が増やせるので	12(12)
粗飼料が足りないの	8(8)
ふん尿の処理が大変なので	8(8)
その他	10(10)

表3 放牧の評価と購入意向(肥育農家)

考慮内容	回答者数(%)
長所と考え進んで買う	24(60.0)
短所と考え敬遠する	3(7.5)
放牧の有無は考慮しない	13(32.5)
合 計	40(100.0)

表4 今後の放牧子牛導入意向(肥育農家)

導入意向	回答者数(%)
導入したい	21(51.2)
導入したくない	1(2.4)
どちらとも言えない	19(46.3)
合 計	41(100.0)

表2 子牛を放牧しない理由(繁殖農家:複数回答)

理由	回答者数(%)
市場での評価が低いから	37(50)
発育が悪くなるから	36(49)
市場に出荷するまでの飼育直しが大変	35(47)
標準的な発育に青草だけでは足りない	34(46)
子牛は放牧に適していないと思う	17(23)
事故の確率が高いから	14(19)
牧野まで行って飼料を与えるのが大変	11(15)
放牧料金が高いから	10(14)
メリットを感じないから	5(7)
牧野の管理が悪いから	2(3)
牧草の状態が悪いから	2(3)

表5 子牛市場の放牧の明示希望(肥育農家)

明示希望	回答者数(%)
希望する	36(87.9)
希望しない	4(9.8)
どちらとも言えない	1(2.4)
合 計	41(100.0)

表6 放牧子牛の飼養管理及び肉質等に関する意識(肥育農家)

単位:戸、%

項目	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
おとなしく管理しやすい	1(2.6)	0(0.0)	7(18.4)	7(18.4)	23(60.5)	38(100.0)
事故や病気が少ない	16(42.1)	14(36.8)	7(18.4)	1(2.6)	0(0.0)	38(100.0)
内臓が丈夫である	29(74.4)	6(15.4)	4(10.3)	0(0.0)	0(0.0)	39(100.0)
餌の食い込みが良い	25(64.1)	12(30.8)	2(5.1)	0(0.0)	0(0.0)	39(100.0)
枝肉歩留まりが良い	1(2.6)	4(10.5)	25(65.8)	3(7.9)	5(13.2)	38(100.0)
バラが厚い	7(18.9)	5(13.5)	19(51.4)	3(8.1)	3(8.1)	37(100.0)
肉色が良い	0(0.0)	1(2.6)	27(71.1)	5(13.2)	5(13.2)	38(100.0)
脂肪色が良い	0(0.0)	0(0.0)	27(71.1)	4(10.5)	7(18.4)	38(100.0)
脂肪交雑が入る	3(7.9)	2(5.3)	26(68.4)	1(2.6)	6(15.8)	38(100.0)

表7 放牧子牛の肥育成績

単位:kg、日、cm、級

性別	区分	頭数	子牛市場成績			肥 育 成 績			
			上場体重	上場日齢	肥育日数	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚
雌	放牧	21	259±20	317±18	580±77	347±29	52.1±6.4	7.0±0.6*	2.5±0.6
	舎飼い	174	268±22	312±22	589±67	354±38	50.5±6.8	7.3±0.8*	2.3±0.7
去勢	放牧	32	294±31	309±19	604±67	408±35	50.7±5.5	7.7±0.7	2.1±0.7
	舎飼い	175	298±22	301±21	600±60	410±43	52.9±7.1	7.6±0.9	1.9±0.6

性別	区分	頭数	肉質等級	BMS等級	BCS等級	しまり・きめ等級	BFS等級
雌	放牧	21	4.0±0.8	4.1±0.8	4.2±0.8	4.1±0.9	4.9±0.3
	舎飼い	174	3.8±0.9	4.0±0.7	4.0±0.9	3.9±0.9	4.9±0.3
去勢	放牧	32	3.4±1.0	3.8±0.8	3.7±0.9	3.5±1.0	4.8±0.4
	舎飼い	175	3.7±0.8	3.9±0.8	3.8±0.9	3.8±0.9	4.9±0.4

※放牧:平成9・10年に放牧され、平成11・12年に肥育出荷されたもので、父、母の父が同一の牛
舎飼い:放牧牛と同時期に出荷された県内産で、放牧牛と父、母の父が同一の牛

* :5%で有意であることをあらわす

表8 子牛放牧の推進についての意向(肥育農家)

意 向	回答者数(%)
子牛放牧を進めて欲しい	23(59.0)
子牛放牧はあまり進めないで欲しい	1(2.6)
どちらとも言えない	15(38.5)
合 計	39(100.0)

表9 子牛の放牧期間の希望(肥育農家)

放牧期間	回答者数(%)
1~2ヶ月	1(2.7)
3~4ヶ月	14(37.8)
5~6ヶ月	17(45.9)
7~8ヶ月	5(13.5)
合 計	37(100.0)